

ローマ人への手紙 11:33–36『五つのソラ』：神の栄光のみ（ソリ・デオ・グロリア）

今日は、宗教改革の「五つのソラ」、福音を要約する五つの大切な教えの、最後の一つについてお話しします。イエス・キリストにある救いの福音は、「聖書のみ」によって知られ、「恵みのみ」に基づき、「信仰のみ」によって、「キリストのみ」において与えられます。そして今日は、それらすべてが「神の栄光のみ」のためであることを見ていきます。ソリ・デオ・グロリア、「神の栄光のみ」とは、救いが私たち人間の努力とは一切関係のないものであるという事実から導き出されます。もし救いが、私たちの行いによって得られるものであったら、たとえば、教皇が与える免罪符を買うことや、祈りや瞑想、先祖崇拜のような行いによって救いを得ることができるものであったなら、その栄光は神ではなく、他の誰かや何かに帰されることになっていたでしょう。しかし、救いは完全に神の御業です。天地創造以前から始まり、人類の堕落を経て、イエス・キリストの十字架と復活において成就し、神と永遠を共にする栄光に至るのです。だからこそ、栄光は神のみ帰せられるのです。今日の聖書箇所は、わずか四節ですが、この中に、私たちの救いにおいて、神ご自身が最終的に栄光を受けられる理由が示されています。では、ローマ人への手紙 11 章 33～36 節を見てみましょう。この箇所をお読みします。³³ ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。³⁴ 「だれが主の心を知っているのですか。だれが主の助言者になったのですか。³⁵ だれがまず主に与え、主から報いを受けるのですか。」³⁶ すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

この箇所は頌栄、すなわち神への賛美です。この直前のローマ 9 章から 11 章では、ユダヤ人も異邦人も、恵みにより神に選ばれた民であり、どちらもイエス・キリストによって救いへと招かれていると、使徒パウロは説明しています。すべての人を、ご自分の民、すなわち靈的なイスラエルの民として迎え入れてくださるという、神による驚くべき啓示を受けて、パウロは神を賛美したのです。パウロの声が聞こえてきそうです。「一通り説明したので、ここで救いの御業すべてに対して、神を賛美しましょう」と。この箇所は、救いの御業が神の栄光を示し、私たちを讃美に向かわせる三つの理由を示しています。一つ目の理由は、神の知恵の深遠さです。33 節は、驚くべきことばで始まります。³³ ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。神の富、知恵、知識は、人間にはたどり着くことも、理解することもできないほど深いものとして語られています。私たちが「本当に知ることができるかどうか」を考えるとき、そこには必ず人間としての限界があります。

たとえば、「海にある水の量が、実際には何リットルあるのか計算してください」と言われたらどうでしょうか。私たちは、集められた科学的な測定やデータを基にして、およその推測をすることができますが、それが正確であるかどうかを、確信をもって知ることはできません。

しかし、神にはそれができると、イザヤ書 40 章 12 節は、問い合わせの形で示しています。

「¹² だれが手のひらで水を量り、手の幅で天を測り、地のちりを升に盛り、山々を天秤で量ったのか。 もろもろの丘を秤で。」この問い合わせの答えは、当然、「神様にはそれができます。他のあらゆることもできるのが神様です。」となります。私たちがどれほど細かいところまで科学的に調べたとしても、神はすでにそれを全て知っておられます。また、人を知るという点においても、私たちには限界があります。たとえば、配偶者、子ども、親、あるいは親しい友人については、より理解していると言えるでしょう。しかし、その理解にも限りがあることが、第一コリント 2 章 11 節に、はっきりと示されています。

「¹¹ 人間のことは、その人のうちにある人間の靈のほかに、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の靈のほかにはだれも知りません。」この第一コリント 2 章 11 節は、ローマ人 11 章が語っているのと、同じ結論にたどり着きます。それは、人間の知性や理性だけでは、神を完全に知ることはできない、ということです。もちろんパウロの話には続きがあります。私たちには聖靈が与えられています。この聖靈こそ、神ご自身であり、神のことをご存知です。ですから、私たちが神を知ることを助けてくださるのです。同時に、神は私たち一

人ひとりを知っておられます。ご自分の栄光のために造られた一人ひとりを、驚くほど親しく、細部に至るまで知っておられるのです。

詩篇 139 篇 1~3 節は次のように語っています 「¹ 主よ あなたは私を探り 知っておられます。² あなたは 私の座るのも立つのも知っておられ 遠くから私の思いを読み取られます。³ あなたは 私が歩くのも伏すのも見守り 私の道のすべてを知り抜いておられます。」

神が私たちに何を求めておられるのかを学ぶことはできます。しかし、救いの御業の理由と方法について、その全てを理解することは、私たちの能力をはるかに超えています。

私たちは福音を理解し、救いが、神の恵みのみによって、イエス・キリストへの信仰のみによって与えられることを理解できます。義認や聖化といった、聖書的・神学的に重要な用語の意味や、その重要性についても、理解しているかもしれません。しかし、そうした知識があっても、三つの位格の完全な交わりの中におられる全能全知の主権者なる神が、人間が必ず罪を犯し、逆らうことを知りつつ、それでも人間を造ることを選ばれた、その思いを理解することはできません。さらに驚くべきことに、神の摂理はそこで終わりません。神は、人間が罪を犯して反逆したにもかかわらず、ただ生かし続けただけでなく、ご自分との関係を回復する道まで備えてくださいました。それが、神の御子イエス・キリストによる救いです。この救いの御業が実際に起こったことを、私たちは福音の記述を通して事実として知ることができます。そして、私たちは、罪を悔い改め、主であり救い主であるイエス・キリストに従うことで、この福音を真実として受け入れることができます。私たちはこの救いに感謝し、イエス・キリストへの信仰が、私たちの生き方そのものに現れるように歩んでいくのです。それでもなお、私たちは、

この素晴らしい福音の真理を語る使徒パウロと同じように、

畏れと驚きをもって、こう言わずにはいられないのです。「³³ ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。」では、なぜ神は、罪人を「罪に問わない」と宣言して義とされるのでしょうか。それは、神の愛によって与えられた、イエス・キリストを信じる信仰によるものだと、私たちは知っています。しかし、それで本当に、「なぜ」という根源的な問いに答えたことになるでしょうか。いいえ、そうはありません。なぜ神は、天のあらゆる豊かさと、ご自身の栄光さえも、私たちに分かち与えようとされたのでしょうか。その理由を知っているのは、神ご自身だけです。神は、世界の初めから終わりまで、すべてを知っておられ、その完全な知恵によって、天地創造の前から、その目的とご計画を定めておられたのです。しかし、神がそのすべてにおいて何を考えておられたのかを、私たちは知っているでしょうか。

—— いいえ、知りません。

それでも、神はご自分の知恵を、救いのご計画を導いたその知恵を、価しない、ふさわしくない私たちに受け取らせてくださったのです。

だからこそ、栄光はすべて神に帰せられるのです。それは完全に、神のご計画であり、神の知恵であり、神の時であり、神の目的だからです。そしてその結果として、神の恵みとあわれみ、救いが、イエス・キリストを信じ、従うすべての者に差し出されているのです。

それは、私たち人間の理解からすれば、とても理にかなっている計画とは言えません。そしてこれが、神が栄光をお受けになる第二の理由です。

その理由とは、救いに現される神の栄光が、人間の理屈では理解しきれないものであるということです。このことは、34 節と 35 節に示されています。³⁴ 「だれが主の心を知っているのですか。だれが主の助言者になったのですか。³⁵ だれがまず主に与え、主から報いを受けるのですか。」 神がなさったような救いの計画を、いったい誰が立てるでしょうか。私たちの神は、完全に聖く、正しく、一切の罪がなく、何が罪であるかを定めるお方です。それに対して人間はどうでしょうか。ローマ 3 章 23 節が語るように、「すべての人は罪を犯し、神の栄光を受けることができない」のです。

神のご計画は、神の栄光を現せない人間を滅ぼすことではありませんでした。それどころか、神は私たちを愛し、救うための具体的な道を備えてくださったのです。ヨハネ 3 章 16 節に示されている通り、「¹⁶ 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子

を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つため」なのです。神のご計画は、私たちの罪を見過ごしたり、なかったことにしたりすることではありません。そうではなく、私たちの罪の罰を、身代わりが引き受け、十字架で死ぬことだったのです。その身代わりとなったのが、神の御子イエス・キリストです。もし私たちが口出しできる立場だったら、神に助言しようとしたかもしれません。「神さま、別のやり方があります。私に説明させてください。」と言ったかもしれません。実際、私たちはいつもこれと同じようなことをしています。たとえば、「自分はそこまで悪くない。本当の意味で罪人と言われるほどではない」 そう考えるときです。それは、聖なる神の目に、私たちの罪がどれほど醜く見えているのかを、私たちが理解できないからです。

中には、神の善良ささえ疑う人もいます。そして、一見すると神の愛にそぐわないように思われるような聖書の箇所を削ろうとすることさえあります。しかし、そう見える箇所も、実は人間の罪と決して相容れない、神の聖さを語っていたりするのです。あるいは、自分たちの罪の深さには気づいていても、神の完全な恵みをそのまま受け入れることができず、善い行いや自分なりの道徳を、神へのささげ物のように差し出して、それによって救いを得ようとすることがあります。私たちは、自分がどれだけ道徳的に生きているか、どれだけ良いことをしてきたかによって、神が報いてくださるだろうと、誤って期待してしまいます。

しかし、ここでもまた、私たちは、聖なる神の御心を理解していません。神は、私たちが「最善」だと思っている、最も道徳的だと感じている行いでさえも、イザヤ書 64 章 6 節が示すように、神の目には次のようにうつるのです。「⁶ 私たちはみな、汚れた者のようにになり、その義はみな、不潔な衣のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、その咎は風のように私たちを吹き上げます。」私たちの最善の行い、最も正しく、最も道徳的だと思っている行いでさえ、神の聖さの光の前では、汚れて、しみだらけの衣のようなものなのです。神が救いにおいて栄光をお受ける理由について、その知恵が私たちの理解をはるかに超えており、そのご計画が人間の理屈では理解できないことを見てきました。しかし 36 節では、神が救いにおいて栄光を受けられる第三の理由が語られています。それもまた、私たちの理解を超えた理由です。これらすべてが示しているのは、救いにおける神の栄光は、贖いのご計画を含む、万物に対する神の主権から来ている、という真理です。

36 節にこうあります。「³⁶ すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。」すべてのものは、神から始まりました。そして神は、それらすべてを今も治めておられます。この絶対的な支配と権威を、聖書は「神の主権」と教えています。神が救いにおいて栄光をお受けになる理由は、救いが文字どおり最初から最後まで、すべて神ご自身の御業だからです。天地創造から始まり、やがて来る新天新地という新しい創造に至るまで、神はすべてを計画し、存在させ、歴史の中で働いてこられました。そして、そのご計画の中心として、神はイエス・キリストをこの世に送られたのです。さらに、イエス・キリストが地上での使命を終え、十字架で死なれた後も、それで終わりではありません。神はご自身の聖霊を遣わし、イエス・キリストの福音が、全世界に宣べ伝えられていくように力を与えられたのです。すべてのものは神から出て、神に至ります。最終的に、神のものではないと言えるものは、何一つありません。それは、私たち自身、そして私たちの永遠の行き先も同じです。

以前にも引用しましたが、20世紀初頭のオランダのカルヴァン主義神学者、アブラハム・カイパーの言葉があります。

彼は、キリストの主権、そして神の主権の本質を、短い言葉で見事に言い表しました。「この世界のどこを切り取っても、万物の主権者であるキリストが『それはわたしのものだ』と宣言されない場所はありません。」 「³⁶ すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るので

す。」

私たちは、神の知恵を完全に理解することはできません。神のご目的やご計画には、私たちには測り知れない神祕があり、それを完全に分かることはないのです。なぜなら、神は万物の主権者として、私たちの人生のすべて、この宇宙のすべてを、最も小さな部分に至るまで定め、計画し、支配しておられるからです。ですから、ローマ人 11 章の結び、そして同時に、聖書の中で

も最も明確に、最も豊かに福音を語ってきたローマ書前半全体の結びの言葉は、こうです。「この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」救いは、私たちを神への礼拝へと導きます。心も、思いも、行いも、存在のすべてをもって、神を崇めるためです。なぜなら、救いとは、ただ頭で信じる教理を超えるものだからです。罪ある人間を救うことによってご自身に栄光を現される神の御業は、救われた者たちを変え、その人生を通して神に栄光を帰すことを目的としています。こうしてパウロは、ローマの信徒たちへの手紙を続け、12章に入ると、1~2節で、次のように勧めるのです。「¹ ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。² この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。」生きたささげ物となるとは、この地上で、自分のいのちを手放し、キリストが私たちのために用意しておられるいのちを求めて生きることです。そのように生きることこそが、神に栄光を帰すことであり、私たちが救われた目的なのです。神は、ご自身の主権によって私たちの救いを成し遂げ、私たちをご自身のもとへと導くことによって、栄光を現しておられます。さらに、神は、私たちを日々造り変え、この世にあって、ますます神の栄光を映し出す者としてくださいます。やがて、その完成の日が来ます。私たちは、神の栄光の御前に立ち、完全に造り変えられ、とこしえに、神のかたち、その似姿にあずかる者となるのです。これこそが、聖書のみに立って見たときに示される福音のメッセージです。恵みのみによって、信仰のみを通して、キリストのみにあって、ただ神のみが、ご自身の民である私たちを通して、栄光をお受けになるのです。祈りましょう。

Romans 11:33-36 Soli Deo Gloria Glory to God Alone

Today we are coming to the final of the five solas of the reformation, these 5 statements that summarize the reformation teachings of the gospel. That the good news of salvation in Jesus Christ is known through Scripture Alone, based on grace alone through Faith alone in Christ alone, and today we will see that all of this is for God's glory alone. Soli Deo Gloria, the glory of God Alone is the outcome of salvation when that salvation has nothing to do with human effort. If salvation was based on our works, or could be purchased through indulgences given by the Pope for money, or could be earned through spiritual practices like prayer, meditation, veneration and pleasing to the point of worship our ancestors or any other actions then the glory would go to someone or somewhere else other than God. But salvation is completely his work from before creation, through the fall of man, to the crucifixion and resurrection of Jesus, and culminating in our glorification in eternity with him forever. So, God himself alone gets the glory. Our passage today is a short one, only 4 verses, but those 4 verses show us why God ultimately gets the glory in salvation. Turn in your Bibles to our passage today, **Romans 11:33-36**. Let's read this as we begin.

33 Oh, the depth of the riches and wisdom and knowledge of God! How unsearchable are his judgments and how inscrutable his ways! 34 "For who has known the mind of the Lord, or who has been his counselor?" 35 "Or who has given a gift to him that he might be repaid?" 36 For from him and through him and to him are all things. To him be glory forever. Amen.

This passage is a doxology, a hymn of praise to God, that comes in Romans right after the Apostle Paul has been explaining from Romans 9-11 how Gentiles and Jews are both the chosen people of God to be included in the grace of God and granted salvation through Jesus Christ. The incredible nature of this revelation of God's inclusion of everyone to be his people, spiritual Israel, leads to a moment of praise. It is as if after arguing all of this, he says let's just take a minute and praise God for all he has done for us in salvation! This passage shows us three reasons why this salvation brings glory to God and should be a reason to worship. **The first of those reasons is the extent of God's wisdom.** Verse 33 begins with these incredible words.

33 Oh, the depth of the riches and wisdom and knowledge of God! How unsearchable are his judgments and how inscrutable his ways!

God's riches, wisdom and knowledge are seen as being unsearchably and unknowably deep. When we talk about whether we can really know something, our capacity for that is limited by human capabilities. If I tell you to calculate the actual liters of water in the ocean, you may be able to make a guess that will be on scientific measurements and data collected over the years, but there is no way to know with real precision whether that is correct or not. And yet, **Isaiah 40:12** asks the rhetorical question about God,

Who has measured the waters in the hollow of his hand and marked off the heavens with a span, enclosed the dust of the earth in a measure and weighed the mountains in scales and the hills in a balance?

The expected answer here is God has done all of this and more! The smallest detail of scientific exploration that we can undertake, God already knows. And when it comes to even knowing other humans, we are limited in that capacity as well. Some we know better than others, our spouse, our children, maybe our parents or a best friend. But the Bible is clear in **1Corinthians 2:11** that even that is limited.

For who knows a person's thoughts except the spirit of that person, which is in him? So also no one comprehends the thoughts of God except the Spirit of God.

1Corinthians 2:11 is ending by making the same point as Romans 11 here, that it is impossible for the human mind and reasoning to fully know God. Of course Paul will go on to make the case that we have the Holy Spirit who

knows God and is God in us to help us understand God. And God who knows each of us and each human being he has created for his own glory intimately according to Psalm 139:1-3, O Lord, you have searched me and known me! 2 You know when I sit down and when I rise up; you discern my thoughts from afar. 3 You search out my path and my lying down and are acquainted with all my ways. But while we can learn more of what God expects from us, to truly know and understand all the why and how behind salvation is far beyond our understanding. We can understand the gospel, and know that it is by God's grace alone, through our faith we have in Jesus alone that we are saved. We may even fully understand the important Biblical and theological terms like justification and sanctification, and their importance to our salvation. But none of that knowledge has even begun to help us understand the thinking of a sovereign all-powerful, and all-knowing God who exists as three persons in perfect fellowship with each other in one God, but yet chooses to make humans knowing they will sin and rebel against their creator. And then in an even more shocking display of God's providence, not only let those humans continue to live, but to provide them with a way to be restored into a relationship with him through Jesus Christ, the Son of God himself. Yes, we can know this happens as fact through the gospel message. We can and I hope you have accepted that gospel as truth by repenting of your sin and following Jesus Christ as Lord and Savior. We can be thankful and even live our lives as we should in response to that faith in Jesus Christ. But still say with the awe of the Apostle Paul as he explains those great truths of the gospel - Oh, the depth of the riches and wisdom and knowledge of God! How unsearchable are his judgments and how inscrutable [or impossible to know are] his ways! Why does he justify guilty sinners by judging them to be not guilty? We know its only because of faith in Jesus Christ out of love for us. But does that really answer the deepest question of why? No, it doesn't. Why would he make all of the riches of heaven and his own glory available to us? He knows why. It was from his own wisdom and complete knowledge of creation from start to finish that he determined before creation itself that purpose and plan. But do we know what he was thinking in all of this – NO! But we are the undeserving and unworthy recipients of this wisdom that brought about the plan for salvation of God's people. All the glory goes to God because it is completely his plan, his wisdom, his timing, his purpose, that results in his grace and his mercy, his salvation extended to all of us who will believe and follow Jesus Christ.

It's not a plan that makes sense in our human understanding. And this is the second reason that God receives the glory. Because God's glory in salvation does not make sense from human reasoning. We see this in verses 34-35. 34 "For who has known the mind of the Lord, or who has been his counselor?"

35 "Or who has given a gift to him that he might be repaid?" Would any of us have planned salvation like God did? We have a completely holy and righteous God who is purely and completely sinless and even defines what sin is, and humans who according to Romans 3:23, that all [of them] have sinned and fall short of the glory of God. God's plan was first to not destroy those humans who had failed to glorify him, but instead to love them and save them in a very specific way. John 3:16 tells us this, 16 "For God so loved the world,[a] that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life. God's plan was not to overlook our sin or ignore it, but to have a substitute take the punishment for our sin by dying on the cross. That substitute was his Son, Jesus Christ, God the Son. If it was up to us we may have tried to counsel God about this. We would have said God, let me explain to you a different way to do

this. In fact, we try to do this all the time. We do this when we think, I'm not bad enough to really be a sinner, because we can't comprehend how the mind of a holy God sees the ugliness of our sin. Many would even question the goodness of God and try to remove parts of the Bible that would seem out of line with God's love, but perfectly in keeping with holiness that can have nothing to do with human sin. Or we recognize the evilness of our sin, but can't accept the full grace of God, so we try to offer good works or our own morality as gifts to God to earn his salvation. We hope wrongly that God will repay us good based on how moral we are or how much good we have done. But once again we do not understand the mind and understanding of a holy God. He is a God who looks at even our best most moral actions in the way [Isaiah 64:6](#) describes. **We have all become like one who is unclean, and all our righteous deeds are like a polluted garment. We all fade like a leaf, and our iniquities, like the wind, take us away.** Our best actions, most righteous and moral actions are like a filthy dirty and stained shirt in light of God's holiness.

God gets the glory in salvation because his wisdom is vast, beyond anything we can begin to understand, and his plan does not make sense to human understanding. But verse 36 gives us a third related reason why these first two reasons for God to get the glory in salvation is far beyond our human understanding. All of this points to the truth that **God's glory in salvation comes from his sovereignty over all things** including his plan of redemption. Verse 36 says, **For from him and to him are all things.** Everything that exists proceeds and came from God himself and he has authority over all those things he created. The word that describes this absolute power and control is sovereignty. The reason that God gets the glory in salvation is that literally from start to finish from creation to recreation in a new heaven and new earth, he planned and brought everything into being and worked through history to bring Jesus Christ into the world. And even once Jesus had completed his mission on earth to die on the cross, God sent His Holy Spirit to empower that good news, the gospel, of Jesus Christ to go all throughout the world. Everything is from and to him, there is nothing that can legitimately say they do not ultimately belong to God himself, including us and our eternal destination. I've used this quote before from Abraham Kuyper, an early 20th century Calvinist Dutch theologian. He made the best summary of Christ's and therefore God's sovereignty. **There is not a square inch in the whole domain of our human existence over which Christ, who is Sovereign over all, does not cry: 'Mine!'" For from him and to him are ALL things!**

We can never understand God's wisdom. God's purpose and plan will always have an extent of mystery to us, and will not be understood fully in this life. All because the Sovereign God has determined and planned and oversees to the smallest detail and tiniest part every single aspect of everything we experience in our lives and we can learn about in this universe. So, the final words of Romans 11 and really the entire first part of Romans that gives us the most clear and full explanation of the gospel anywhere in the Bible can only be these words - **To him be glory forever. Amen.** Our salvation should drive us worship, to glorify God with every part of our being. You see salvation is not just a set of doctrines we believe. The work of God to bring himself glory by saving sinful humans is for the purpose of changing those he saves to bring him that glory. So, as Paul continues writing this letter to the Roman Christians, he moves into chapter 12 by writing in [Romans 12:1-2](#), **I appeal to you therefore, brothers, by the mercies of God, to present your bodies as a living sacrifice, holy and acceptable to God, which is your**

spiritual worship. 2 Do not be conformed to this world, but be transformed by the renewal of your mind, that by testing you may discern what is the will of God, what is good and acceptable and perfect. By becoming a living sacrifice, giving up our lives to seek the life that Christ has for us here on this earth brings glory to God and is the goal of our salvation. God is glorifying himself by sovereignly working out our salvation to bring us to himself and then changing us to reflect more and more of his glory to the world around us until one day we stand in the full presence of his glory fully transformed into his image and likeness for all of eternity. And this is the message of the Gospel when we look to Scripture alone, and see that by grace alone, through faith alone, in Christ alone, God alone gets the glory through us as His people. Let's pray.